

科目名	東洋医学概論 Outline of Oriental Medicine	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

中医学を中心に、中医学の基礎となる思想や人体の生理観、疾病観などについて講義する。
前期では主に整体観念や陰陽五行論といった中医学の基礎となる思想をはじめとして、東洋医学的な人体のとらえ方(生理観)を学ぶ。【 気、血、津液、臓腑 】
2年次の鍼灸診察学につながる科目であり、東洋医学的な診察、診断、治療の基礎となる知識を学ぶ。
授業開始時に前回の授業内容の小テストを実施する。

【到達目標】

東洋医学的な診立てや治療を行うために必要な知識を身につける。
＜具体的な目標＞
目標①陰陽五行それぞれの属性にあてはまるものを分類できる。
目標②気血津液の「生成」「気の種類と作用」「血の循環」「津液の輸布と排泄」について説明できる。
目標③五臓六腑の生理作用と生理特性を答えることができる。
目標④国家試験の過去問題で陰陽五行、気血津液、五臓六腑の項目にあてはまるものに関して出題意図が理解でき、解答できる。

授業計画・内容

1回目	東洋医学の成り立ちと発展 ・ 東洋医学の基本的特徴(整体観念)の説明ができる。
2回目	陰陽学説:陰陽分類、陰陽学説の対立制約、互根互用、消長平衡、相互転化が説明できる。
3回目	五行学説:五行の特徴と相生、相剋について説明できる。五行色体表の五色、五方、五季、五臓、五腑を覚える。
4回目	気血津液:精の種類・気の種類と作用について説明できる。
5回目	気血津液:血の生成・機能・循環について説明できる。
6回目	気血津液:津液の生成・機能・輸布と排泄について説明できる。
7回目	精気学説・気血津液の相互関係について説明できる。
8回目	蔵象学説について説明できる。
9回目	五臓の心・肝の生理機能・五行(五体・五官・五華・五液・五志)を説明できる。
10回目	五臓の脾・肺の生理機能・五行(五体・五官・五華・五液・五志)を説明できる。
11回目	五臓の腎の生理機能・五行(五体・五官・五華・五液・五志)を説明できる。六腑の胆・胃の生理機能を説明できる。
12回目	六腑の小腸・大腸・膀胱・三焦の生理機能を説明できる。
13回目	奇恒の腑の生理機能を説明できる。
14回目	刺法(九刺、十二刺、五刺)を説明できる。
15回目	まとめ(陰陽学説・五行学説・気血津液学説・蔵象学説の要点を説明できる)
準備学習 時間外学習	(目標①)授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②)東洋医学用語については、反復学習により慣れることが必要です。漢字は書いて覚える、漢字の読み方は声に出して覚える、用語の意味は分からなければすぐに調べるを徹底しましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	東洋医学概論は西洋医学とは違う視点(東洋医学)で、健康と病気を診る科目です。東洋医学概論では東洋医学の基礎となる思想や哲学の理解と人体の生理観、疾病観などを学習します。授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

科目名	東洋医学概論 Outline of Oriental Medicine	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
【授業の学習内容】 中医学を中心に、中医学の基礎となる思想や人体の生理観、疾病観などについて講義する。 後期では主に病因病機、経絡の機能について学ぶ。 2年次の鍼灸診察学につながる科目であり、東洋医学的な診察、診断、治療の基礎となる知識を学ぶ。 授業開始時に前回の授業内容の小テストを実施する。							
【到達目標】 東洋医学的な診立てや治療を行うために必要な知識を身につける。 ＜具体的な目標＞ 目標①病因の分類ができ、六淫の邪気の性質を答え、それぞれ説明できる。 目標③発病の要因となる正気や邪気概念を理解し説明できる。 目標④陰陽失調において現れる4つの病証を理解し説明できる。 目標⑤経絡の構成と十二経脈の手足の走行部位、循行(接続部位)、属絡関係を答えることができる。							

授業計画・内容	
16回目	病因(概説)について説明できる。
17回目	六淫の邪気:風邪・火邪・暑邪の特徴について説明できる。
18回目	六淫の邪気:燥邪・湿邪・寒邪の特徴について説明できる。
19回目	内傷病:七情の特徴・関係する五臓・気機の異常について説明できる。
20回目	内傷病:飲食不摂・劳逸について説明できる。
21回目	病理産物:痰飲・瘀血について説明できる。
22回目	発病のメカニズムについて説明できる。
23回目	病機①:正邪闘争について説明できる。
24回目	病機②:陰陽失調について説明できる。
25回目	経絡の構成と機能が説明できる。
26回目	十二経脈の構成と流注が説明できる。
27回目	十二経脈(手太陰肺経・手陽明大腸経・足陽明胃経・足太陰脾経・手少陰心経)の循行が説明できる。
28回目	十二経脈(手太陽小腸経・足太陽膀胱経・足少陰腎経・手厥陰心包経・手少陽三焦経・足少陽胆経・足厥陰肝経)の循行について説明できる。
29回目	奇経八脈の機能について説明できる。
30回目	まとめ(病因・発病と病機・経絡の要点を説明できる)
準備学習 時間外学習	(目標①)授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②)東洋医学用語については、反復学習により慣れることが必要です。漢字は書いて覚える、漢字の読み方は声に出して覚える、用語の意味は分からなければすぐに調べるを徹底しましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	東洋医学概論は西洋医学とは違う視点(東洋医学)で、健康と病気を診る科目です。 東洋医学概論では東洋医学の基礎となる思想や哲学の理解と人体の生理観、疾病観などを学習します。 授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。 小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社	